



科長
笹原 洋二 特命教授

小児科 小児腫瘍科

病棟	西病棟	5F (小児医療センター)
外来	新外来診療棟	3F
連絡先	022-717-7878 (外来)	
ホームページ	http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/ (小児科)、 http://www.ped-onc.hosp.tohoku.ac.jp/ (小児腫瘍センター)	

主な対象疾患

●小児白血病・固形腫瘍性疾患 ●小児良性血液疾患 ●難治性ウイルス感染症 ●原発性免疫不全症

診療内容

小児白血病・固形腫瘍の診断と治療、長期フォローアップ外来・移植後フォローアップ外来

小児白血病や悪性リンパ腫などの血液腫瘍性疾患、神経芽腫や肝芽腫、ウィルムス腫瘍などの固形腫瘍、脳腫瘍の診断と内科的治療を行っています。全国規模の小児白血病、固形腫瘍のグループスタディーへの参加による治療成績の向上を目指しています。難治性疾患に対しては造血幹細胞移植を併用した治療を行っています。難治性固形腫瘍の筆頭には進行期の神経芽細胞腫があげられますが、このような疾患に対しては、新規治療開発のための臨床試験にも参加しています。

小児白血病の治療成績の向上により、多くの患児が治る病気になってきました。そのため、治療終了後の生活の質（QOL）の向上のために、医師・看護師・臨床心理士・MSWによる長期フォローアップ外来と造血細胞移植後フォローアップ外来を行っています。

小児良性血液疾患

再生不良性貧血、先天性骨髄不全症候群、免疫性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血など、良性血液疾患の診断と治療を行っています。

難治性ウイルス感染症

EBウイルス感染症後の宿主免疫の異常により発症する慢性活動性EBウイルス感染症、移植後リンパ増殖性疾患の診断と治療に力を注いでいます。慢性活動性EBウイルス感染症の根治療法として、骨髄非破壊的前処置による造血幹細胞移植を施行しています。

原発性免疫不全症

生まれながら病原体に対する免疫能を欠く原発性免疫不全症の診断・治療を広く行っています。特に重症複合免疫不全症とWiskott-Aldrich症候群は全国から相談が寄せられています。また、根治療法として同種



病棟セミクリーン域個室(写真1)



病棟セミクリーン域プレイルーム(写真2)



小児がん総合カンファレンス(写真3)

ご紹介いただく際の留意事項

■新患日は月、水、木、金曜日ですが、緊急性のある場合は当該診療グループへ御連絡下さい。
小児科へ御連絡頂いても結構です。

小児科 小児外科



科長
仁尾 正記 教授

病棟	東病棟	5F
外来	外来診療棟C	3F
連絡先	022-717-7758 (外来)、717-7024 (夜間・休日受付)	
ホームページ	http://www.ped-surg.med.tohoku.ac.jp/	

主な対象疾患

●そけいヘルニア ●停留精巣 ●臍ヘルニア ●肥厚性幽門狭窄症 ●腸重積症 ●急性虫垂炎 ●胃食道逆流症 ●頸部瘻孔・嚢胞
●小腸・大腸・肛門の疾患(小腸閉鎖、鎖肛、ヒルシュブルング病など) ●腸管不全/肝胆道疾患(胆道閉鎖症、胆道拡張症など)
●門脈圧亢進症 ●肺・縦隔・食道疾患(嚢胞性肺疾患、食道閉鎖・狭窄症など) ●胸壁・腹壁の異常(漏斗胸、臍帯ヘルニア、腹壁破裂など)
●横隔膜の異常(横隔膜ヘルニアなど) ●良性腫瘍(血管腫、リンパ管腫、奇形腫など) ●悪性腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、悪性胚細胞腫瘍など)

診療内容

(1)各領域の専門家が最先端の医療を行いつつ、Common diseaseも対応しています。

当診療科は、新生児外科、小児消化器外科、小児肝胆道外科、小児呼吸器外科、小児移植外科、小児腫瘍外科、小児内視鏡外科といった各領域の専門家が最先端の医療を行っています。一方、虫垂炎などの救急疾患やそけいヘルニアや便秘などの日常的疾患にも広く対応しています。

(2)関連診療各科と協力して治療を行います。

小児科、産婦人科、外科系各科等、関連診療各科や中央診療部門、さらに東北大学病院以外の施設とも密に連携しています。集学的な治療が必要とされる小児がんにおいても、当診療科は関連各科と連携して治療を行うことができる全国有数の施設です。また、CLS、小児精神科医や児童心理学者と協力して子供達や親御さんに対する心理的ケアを行い、理想的な外科医療の提供を目指しています。

(3)胆道閉鎖症治療のパイオニアです。

東北大学の故葛西森夫名誉教授が、世界で初めてその根治手術(葛西手術)を開発して以来、世界有数の豊富な臨床経験に基づき、術前術後管理、合併症の治療を含め、世界の指導的立場にあります。



図1: 小児内視鏡手術

内視鏡手術は、成人では市中病院でも広く行われていますが、小児領域では専門性が高く、限られた施設でしか行えません。当科では新生児を含めて積極的に行っています。



図2: 低侵襲手術・整容的手術の取り組み(H病の術前管理中のレントゲン)

多期的手術による麻酔・手術の侵襲を軽減するため、様々な工夫をしています。ヒルシュブルング病・鎖肛に対する新生児期・乳児早期一期的根治手術を積極的に行っています。



図3: バキュームベルによる漏斗胸治療

漏斗胸治療は、手術だけでなく、バキュームベルによる陰圧療法を行っています。



図4: 臍部切開による開腹手術創(肥厚性幽門狭窄症術後)

新生児・乳児に対して整容性に優れた臍部切開による開腹手術、腋窩切開による開胸手術を積極的に導入しています。

ご紹介いただく際の留意事項

■新患外来を月曜と木曜の午前に行っています。初めて当科を受診される際には新患外来にご紹介ください。急患患者さんに関しては24時間体制で受け入れておりますので、いつでもご連絡ください。